

竹端 土佐 杉本 佐藤 (金)
真理子は爺ヶ竹東尾根、鹿島槍を

山についていろいろと話合った。

「ぶくぶく号」だった。

12月30日 (晴)

△タイムV起床3:00、出発6:00
IBC(約2000m) 12:45 (泊)

朝食をとり全装備で出発。荷物は次の通りだった。村松28kg、後藤27kg、露木27kg、土佐26kg、竹端26kg、土屋25kg、毛利24kg、小沢22kg、杉澤20kgと標識用竹。数分で例の急登が始まる。しかし、土屋が急に腰痛を訴えたので、彼の持っていた4・2kgの肉を皆で分けた。2回の休憩で東尾根に出

る。雪が多いので樹木が埋まり以前の印象と違って見える。爺ヶ岳が真っ青な空をバックに雪煙を上げていた。

しばらく登ると下山するパーティーに会う。そんな中、私は知人にバツタリと会った。東京で労山に加盟している「風の子山岳会」の人達だった。話を聞いてみると、ここ数日悪天候続きで登山活動は全く出来ず、今日の晴天を利用してやっと下山してきたという。やっぱりずっと天気は悪かっ

たのだった。東尾根は相変わらず歩き易く、特に不調の者も出ず順調に進み、BC予定地の2000m台地に着いた。目の前には爺ヶ岳と鹿島槍

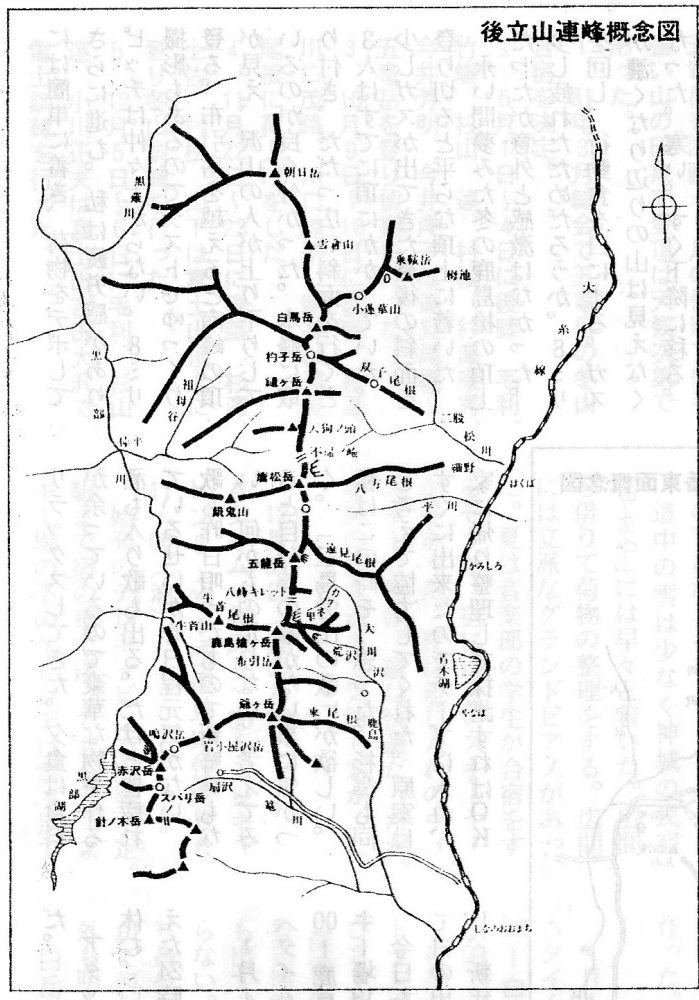
が迫力を持って迫る最高に展望の良い場所である。特に爺ヶ岳の主稜は首が痛くなる程鋭く天につき上げていた。鹿島槍のヒマラヤヒダも美しく、さすが北アルプスと思わせた。目を転じると、なだらかな東尾根の向こうには松本盆地が午後の斜陽にぶく光っていた。

人は爺のみと決定した。夕食後は酒も入り全員最高にノリまくり夜は更けた。

12月31日 (晴)

△タイムV起床3:00、出発5:40
爺ヶ岳9:20、冷池山荘10:10
鹿島槍ヶ岳12:10、冷池山荘13:15
IBC15:50 (泊)

ゆうべは高気圧からの吹き出しの風がうるさかった。ランプをつけて出発。トンガリピーク(2198m)で夜が明けた。8ミリを回すが寒さですぐ止まってしまい閉口する。ジャンクシオン・ピーク(2430m)にはテントが3張あった。ここから爺まで太もものラッセルがあったが、青空のもと深雪をかけたの登行は最高の気分だった。こんな時つくづく思う。「これだから山は止められない」と。



秋の荷上げ品を掘るとゆうに3mはあった。そして一斗缶は雪の重みで所々へこんでいた。夕食はスキ焼だった。明日の打合せをする。16時の天気図は良かった。天候が良ければ、全員で鹿島槍まで行きたかった。だが、爺ヶ岳で良いという人もいたし、体力的にどうかと思う人もいた。安全を考えるとそれも考えなくてはならない。

結局槍には後藤、毛利、杉澤、村松の4名がアタックし、残りの

やがて9名は爺頂上に立ち堅い握手。三島芳山で初めて登った冬の北アルプスの頂。しかも、今日は女性を含んでいた。記念写真を撮りしばし360度の展望を楽しむ。しかし、私達4名はいつまでもここに留まっている訳にはいかない。私達はワンビバークの装備を背負って槍に向かう。冷池山荘